

宇美町

エコトリコ

(2017年広報9月号)

地球温暖化は陸地だけの問題ではありません。

18世紀後半にイギリスで起こった産業革命以後、約200年の間に地球上の二酸化炭素濃度は倍増し、気温は、陸地・海面を問わず上昇し続けてきました。

通常、地球上で最も気温が高い地域は赤道直下です。地球儀や世界地図を見てみると、この赤道付近はほとんどが陸地ではなく、海面であることが分かります。

地球上には約14億K³mの水が存在するといわれますが、このうち約97・5%を海水が占め、残りの約2・5%が淡水です。しかもその大部分が南極や北極地域の氷や氷河、または地下水であり、私たちが生活用水として利用しやすい淡水は、この中の約0・01%しかありません。

水にはさまざまな物質が溶け込みやすい性質があり、海岸には、大気に存在する約50倍の二酸化炭素が蓄積されているそうです。溶け込んだ二酸化炭素は海水の温度にも影響し、海水温度の上昇は雲を発生させ、雨となって地上に還ってきます。この循環を水循環と言います。しかし、自然界の法則ともいえるこの現象が近年変化してきており、日本でも見られる「竜巻」や

や「集中豪雨」の発生にも繋がっています。

以前にも掲載しましたが、「自然」に「異常」はありません。「例年(自然)はこんなものだ」と思い込み、違った現象が起こると「自然と違う(異常)気象だ」と思っていないませんか？

50年後〜100年後の地球環境は、今の「例年(自然)はこんなものだ」を基準に見ると、住みづらい「異常だらけ」の地球になると考えられています。そうならないためには、事実を受入れ、二酸化炭素の発生を少しでも抑えることが重要です。

※数値は国土交通省、気象庁資料から引用

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆

